

私立大学研究ブランディング事業 2019年度の進捗状況

| | | | | | |
|--------------------|---|-------|----------|-----|---------|
| 学校法人番号 | 261013 | 学校法人名 | 学校法人 立命館 | | |
| 大学名 | 立命館アジア太平洋大学 | | | | |
| 事業名 | インクルーシブ・リーダーシップの研究・育成・実践拠点としてのグローバルブランド確立 | | | | |
| 申請タイプ | タイプB | 支援期間 | 2018 | 年度～ | 2020 年度 |
| 参画組織 | 国際経営学部、経営管理研究科、教育開発・学修支援センター、立命館アジア太平洋研究センター、国際協力・研究部 | | | | |
| 事業概要 | <p>多様化する価値観から生ずる様々な現代社会の解決に資する「インクルーシブ・リーダーシップ」について、世界的にも希少なAPUのダイバーシティ環境を活かした研究・育成・実践を行い、理論化・体系化する。そこで得られた知見を広く社会と共有しつつ、APU2030ビジョン「APUで学んだ人が世界を変える」の具体化を通じてより豊かな社会作りに貢献することで、「グローバル化した現代社会の課題を解決する大学」というブランドを構築する。</p> | | | | |
| ①事業目的 | <p>インクルーシブ・リーダーとは 世界ではグローバル化が進み、年齢、人種、性別、国籍による考え方の違いはもちろんのこと、LGBTや障がい者なども含めて価値観が多様化しており、その価値観の違いが紛争や貧困問題、格差の拡大といった様々な現代社会の課題と結びついている。「インクルーシブ・リーダー」とは、多様な価値観を多様な個性・能力・資質ととらえ、コミュニティーの一員として受け入れて、その多様性を組織の力に変換することができる人材である。</p> <p>本事業が目指すところ インクルーシブ・リーダーシップに関するセンターを設立し、実践研究・教授法研究・理論研究を行い、さらにそれらを実践的に応用し、インクルーシブ・リーダーの育成を行う。その過程と成果を再び研究にフィードバックしつつ、国内外の研究教育機関、企業と情報を共有し、豊かで活力ある社会を日本をはじめ世界の各地で実現することに貢献する。 また、世界的に見ても米国コーネル大学がInclusive Excellence Academyを設立し実践を行っているなどの事例があるが、研究は進んでいないことがRandel(サンディエゴ州立大、2018年)などによって指摘されている。よって、APUがインクルーシブ・リーダーシップの研究・育成・実践を統合した拠点となれば、国際的にも非常に稀少な存在となり、大学のブランディングが構築される。</p> | | | | |
| ②2019年度の実施目標及び実施計画 | <p>【ブランディング戦略】 既存の研究に加え、新規の取り組みとしてインクルーシブ・リーダーシップに関するワークショップやレクチャーを行い、さらにInclusive Week を創設して、それら一連の取り組みをビデオ作製し、SNSやホームページ等を通じて広報活動を展開し、一般社会・産業界でのブランドイメージを広げる。また、AAPBSの総会を利用して、200以上のビジネススクールの代表にインクルーシブ・リーダーシップに関するアンケート調査を行い、世界のトレンドを把握する。</p> <p>① AACSBやQS-MAPLE、QS-APPLE総会に参加しプレゼンテーションを行い、海外ブランディング戦略を進める。 ② 国内外のビジネスケースコンペティションに参加・開催し海外ブランディング戦略を進める。 ③ インクルーシブ・リーダーシップの重要性を認知させるビデオを作成 ④ APUにおけるインクルーシブ・リーダーシップに関する活動や影響力をまとめたInclusive Leadership Annual Report を発行する</p> <p>【研究活動】 ① 理論研究 ・アジア太平洋カンファレンスにてインクルーシブ・リーダーシップに関するセッションを設ける。 ・インクルーシブ・リーダーシップに関するプロフェッショナル開発ワークショップを運営・実施。 ② 実務研究 ・企業、NPO、NGOのリーダーを招聘したインクルーシブ・リーダーシップに関するレクチャーや会議を開催する ③ 教授法研究 ・国内外のビジネスケースコンペティションに参加・開催し、学生のインクルーシブ・リーダーとしての能力を発揮する機会を設け成長を促す。 ・Inclusive Week を設定し、インクルーシブ・リーダーシップに関する催しを開催することで、在学生及び来校者向けにインクルーシブ・リーダーシップの理解を促す。</p> | | | | |

| | |
|--|---|
| <p>③2019年度の事業成果</p> | <p>【ブランディング戦略】</p> <p>①総会に参加しプレゼンテーション等の活動を通じてAPUおよびCILに関する広報を行った。また、情報収集やネットワーク構築も行った。主な参加総会は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AACSB Diversity and Inclusion Summit ・QS-Worldwide(参加大学:36カ国・地域から108大学) ・AAPBS 2019 Academic Conference(参加者数:約70名程度。参加大学:シンガポール国立大学、香港科技大学、復旦大学、KAIST、タマサート大学等) ・Global Leadership Summit <p>②本学で開催されるビジネスケースコンペティションにてプロモーションを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Hunter's Dream APU Global Business Case Challenge 2019(聴講者数:160名、海外11大学が参加し、国内外の多様な業界から審査員が参加した。) <p>③2020年2月にプロモーション用のビデオを作成した。</p> <p>ビデオは国内外での広報普及用に日・英両言語に対応しており、主催イベントでの上映やCILホームページ、Facebookなどで公開した。(動画再生数:延べ約5,500件)</p> <p>④Inclusive Leadership Annual Report 本学のインクルーシブ・リーダーシップに関する取り組みをまとめたAnnual Reportを作成。発行は2020年6月初旬を予定。</p> <p>【研究活動】</p> <p>以下7つの研究テーマで研究を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①グローバル人材、組織の業績や従業員エンゲージメントにおけるインクルージョンの影響 ②日本のインクルーシブ・リーダーシップと企業の社会的責任、ソーシャル・アントレプレナーシップの男女差 ③高等教育におけるダイバーシティとインクルーシブ・リーダーシップ、インクルーシブ・リーダーシップのプログラム開発 ④若年層におけるインクルーシブ・リーダーシップ ⑤アジアにおけるインクルーシブ・リーダーシップと企業の社会的責任 ⑥持続可能な発展のためのワークグループインクルージョン ⑦ツーリズムマネジメントのダイバーシティとインクルージョン <p>そのほか、計画に基づき以下の取り組みも実施した。</p> <p>①理論研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア太平洋カンファレンスにてセッションを開催。(参加者:約30名) ・研究者(コロラド州立大学、コーネル大学)を招聘し、レクチャー・パネルディスカッションを行った。(参加者:約60名、TV取材2件) <p>②実務研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティに関する先進的な取り組みを行う企業を招いてレクチャー・パネルディスカッションを行った。(参加者:約60名、TV取材2件) ・実務家を招聘し、「世界に平和の理解を広げるリーダーシップ講演会」を開催。(参加者:約150名) ・著名な有識者を招き、レクチャーとパネルディスカッションを行った。(参加者:約100名、動画再生数:約5,500回) <p>③教授法研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催については【ブランディング戦略】②の通り。 ・学生がリーダーシップを発揮し主体となって運営できるようサポートを行った。 ・Inclusive Weekの2020年度の開催に向けて学生実行委員組織の立ち上げを行った。 |
| <p>④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p> | <p>(自己点検・評価)</p> <p>内部評価機関として、学長を座長とした”Continuous Improvement Committee”が活動内容をセメスターごとに適宜点検している。今年度は2019年12月に開催された。また本学では立命館学園の監事監査が別途あり、定期的に大学運営の監査を受けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>国内外の外部委員による「APU Governing Advisory Board・大学評価委員会」(GAB)が2020年2月に開催されたる予定であったが、コロナウイルスの影響で延期となり、年度中の開催ができなかった。</p> <p>2020年度中に実施を予定しており、そこでアドバイスを受けることとしている。本事業は本学をとりまくあらゆるステークホルダーが関わるため、国内外の企業・研究機関の有識者の他、卒業生の参画も予定している。</p> |
| <p>⑤2019年度の補助金の使用状況</p> | <p>事業計画に基づく配分で資金管理を行っている。区分と主な用途は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブランディング戦略での補助金使用状況:7,504千円 WEBページ構築費、イベント開催費用、プロモーションムービーなど広報物の作成 2. 研究活動での補助金使用状況:6,637千円 CIL研究費、CIL研究プロジェクト助成費、全体の研究に活用できる消耗品費 3. その他:1,970千円 ・専門に担当する職員の人件費、出張旅費 |